

相続による地域別家計金融資産への影響

野村資本市場研究所 宮本佐知子

人口減少と少子高齢化が進展する中で、わが国の家計資産は大きな転換期を迎えている。本稿では、特に相続を通じた資産移転に焦点を当て、地域別の家計金融資産への影響を検討することを目的とする。わが国では家計資産は高齢世代に偏在する一方、過去の人口移動を反映し異なる地域に居住する親子も多いことから、相続を通じた資産移転の影響は地域によって異なると考えられるからである。

今後予想される、相続による家計金融資産への影響を推計したところ、家計金融資産の大都市圏への集中が一層進むとの結果が得られた。金融機関が今後の戦略を立てる上では、このような家計金融資産の変化を考慮に入れることも大切になるのではないかと。